

□10月23日礼拝説教(隅野徹牧師)短縮版

題:「恐れるな。あなたの王が来られる」 (ヨハネによる福音書12:9～19)

「イエスのエルサレム入場」は「馬ではなく、ろばの子に乗ってイエスがエルサレムに入られる」場面として有名です。4つの福音書すべてで、この場面は描かれていますが、ヨハネ福音書の描き方は「マタイ、マルコ、ルカの三つとはかなり違った描き方」です。とくに「人々の期待、弟子達の期待」と、「ろばの子にお乗りになったイエスの思い」との違いを際立たせて描いていることが特徴的です。

15節の「恐れるな」という言葉は、ゼファニヤ書の3章14・15・16節から来ているそうです。ヨハネは「平和を作り出す真の王がろばに乗ってこられること」を予言したゼカリヤ書9章9節と、ゼファニヤ書3章16節の「恐れるな」という言葉を組み合わせて15節を語っているのです。ヨハネは、ゼカリヤ書の「大いに踊れ」に代えて、ゼファニヤ書の「恐れるな」をここに持って来たのです。それはヨハネが、弟子たちの中に「恐れ」があることを見ているからでしょう。

自分が信じ、願い、期待している救いに対して、目の前起こっている現実には「王として期待したイエスが、弱々しいろばの子にお乗りになっている」のです。神のみ心が分からない、救いがどこにあるのか見えない、という恐れを抱いていたであろう弟子たち。しかしそんな彼らに、神は「恐れるな」と語りかけ、「見よ、お前の王がおいでになる、ろばの子に乗って」と語られたのだ、とヨハネは教えるのです。

力によって敵をなぎ倒すのではなく「捕えられ、十字架につけられて殺されるという弱さによって、私たちの全ての罪の贖いを成し遂げる」ことによる勝利。それは弟子たちが期待していたことと違うだけでなく、多くの人間が期待していることとも違います。しかし！そこに、力によっては決して得られない平和・平安が与えられる、そのことをこの箇所は示しています。世の中が、どんなに「目に見える力」を重視し、その価値観に押しつぶされそうになっても！私たちは「恐れなくて」生きていける！そのことを今朝の箇所から覚えていきましょう。(終)